

鍛造プレス用「ダイホルダー」メーカー

明確なビジョンと理念を掲げる

愛知発「感謝」の創造企業

金型をプレス機械に固定するための治具「ダイホルダー」。自動車部品などを製造する鍛造会社で用いられ、安定した品質と生産性向上には欠かせない設備の一部だ。この「ダイホルダー」の国内シェア約五割を誇るのが、楠精工株式会社。七代目社長として同社を率いる三浦光広社長に仕事に関わる流儀を聞いた。

「当社の製品は鍛造会社様の省力化・効率化を促すもの。『縁の下の力持ち』という言葉がぴったりでしょうね」と三浦社長。

確かに、一般的に認知された製品とは言い難い。しかし、こう続ける。「神輿を担ぐ人がしっかりと

いないと、上の人は上手く踊れません。例えるなら、我々は神輿を担ぐ人の足元を支えるわ

ら、鍛造品を使って作られる自動車などの製品を使う多くの

人々のお役に立つことが、私たちの使命だと思っています」

三浦社長が代表に就任したのは、二〇〇八年四月。直後のリーマンショック、そして東北の震災。就任後の苦難は言うまでもない。それを支えたのは、積み重ねてきた信頼と実績。そして三浦社長が目指す企業と仕事のあるべき姿を追求した考え方だろう。

「お客様のモノづくりを支える省力設備の製造を通じ、関わる全ての人の豊かな「和」を育みながら、自然と共存する人類の発展に貢献する」

先代より引き継いだ理念を基に、より具体的に、より時代に

即した文章にアレンジしたという。他にも、中期ビジョンとして「鍛造品の安定供給 お役立ち日本一を目指す」。スローガンには「お客様の喜ぶことをしよう!」を新たに掲げ、自らの座右の銘「そ(掃除)わ(笑い)か(感謝)」にもこだわる。

特に掃除に関しては、「特別なことはできなくても掃除なら

できるのでは、と思い始めました。『凡事徹底』です」と三浦社長。以降、会社内の清掃や工場内の環境整備・整理整頓に惜しみない情熱を注いでいる。

ただの綺麗好きというわけではない。顧客をはじめとして、社員やその家族、近隣の住民など、会社に関わるすべての人に幸せになってもらう手段だ。

「仕事とは、お客様に喜んでいただくこと。その結果として得られる感謝の大きさが対価であり、絶対に逆になってはいけません」と三浦社長。「感謝」を創造することこそが「仕事」なのだ。顧客第一主義や徹底したクレーム対応なども感謝や笑顔を生み出す秘訣と言える。それゆえ、いくら優秀な人材であつても、この考え方を共有できなかったら採用しないという。

二〇一〇年には、愛知県内の優れたモノづくり企業を集めた「愛知ブランド企業」の認定を受けた同社。開発からリニューアルを繰り返し、三〇年以上にわたり愛されてきた主力製品「HCPダイホルダー」の実績と性能が決め手となった。

今後は、中国やインドなど省人化、高精度化、生産性向上の要求が高まる海外のローカル企業への展開を見据え、すでに中国での展示会では、手ごたえも十分のようだ。

「会社としての方向性が本当に間違っていないのか、真偽がはっきりするのはこれから」と油断はないが、日本を代表する製品力と三浦社長の経営感覚をもってすれば、決して「クズノキ」が倒れることはないだろう。

対価は仕事の結果 まずは顧客のために

いつも盛り上がる社員旅行での集合写真



いつも盛り上がる社員旅行での集合写真

三浦光広

楠精工(株)代表取締役社長



「お客様のモノづくりを支える省力設備の製造を通じ、関わる全ての人の豊かな「和」を育みながら、自然と共存する人類の発展に貢献する」

「会社としての方向性が本当に間違っていないのか、真偽がはっきりするのはこれから」と油断はないが、日本を代表する製品力と三浦社長の経営感覚をもってすれば、決して「クズノキ」が倒れることはないだろう。